

第2回 共同物流等の促進に向けた研究会 議事概要

日時：平成31年2月13日（火）10：00～12：00

場所：中央合同庁舎第3号館 4階総合政策局 局議室

出席者：（有識者）矢野裕児座長、一柳創委員、二村真理子委員、北條英委員
（ヒアリング事業者）キューピー株式会社、日本パレットレンタル株式会社、一般社団法人全国物流ネットワーク協会

【ヒアリング結果の報告を受けて】

- ・自社内や他社に対し、共同物流のメリットをどのような資料でどのように定量的に示して説明したのか、コスト以外のメリットをどう説明したのか、引き続きヒアリングしてほしい。
- ・大手事業者へのヒアリングが多いが、共同物流で効果が大いなのはむしろ中小事業者。中小の事業者からもヒアリングを行い、どういうニーズがあるか拾えるとよい。
- ・国への要望として、コスト面での補助とプラットフォーム作りの大きく2点があった。補助金という観点では、進めやすい業界など、できるところから始めると良いのではないかと。
- ・共同物流のメリットや課題がとりまとめられることは良い。企業の決算の視点では、まだまだ物流費の上昇は問題視される状況であるが、意識を変える必要がある。料金の是正に伴い、物流企業の財務改善も実現してきている状況ではある。財務状況以外でもSDGsへの取り組みなどで評価する声も聞かれるので、そういった状況も後押しにならないかと考えている。
- ・相対的な話として、リードタイムN+2日は、メーカーと卸では上手くいくが、卸と小売では難しい。

【キューピー株式会社からのプレゼン】

- ・翌々日配送に関して言えば、発着荷主のシステム改修は多大ではない、又は現行でも可能と思われる。当社は若干改修が必要。物流事業者は一部データを受けるところで改修の必要がある。
- ・翌々日配送を小売センターまでご理解戴くためにはスポット発注ではなく通年発注に変更するなど対策が必要ではないか。同時に厳しい物流環境のご理解を戴く必要がある。
- ・お客様には、将来の危機対応のため、「運べなくなることでの多大なご迷惑をおかけする」ことを回避するため「翌々日配送へのご理解」をお願いしたいということでご説明している。出荷まで24時間ある分、事前に十分調整ができ、「結果届けられない」ということがない。
- ・在庫コストは十分分析できていないが、増えているという感覚はなく、緻密に管理

することで、現行レベルか減っている印象。今後定量化したい。

- ・翌々日配送の課題に追加注文があるが、需要予測の精度が高まることで改善されるのではないかと。

【日本パレットレンタル株式会社からのプレゼン】

- ・異業種では、同業種と違って、共同物流による平準化が期待される。荷量が平準化されると、ベースとなる輸送量が定期的な輸送によって固定されるので、変動部分の波動を吸収しやすくできる余裕が生まれる。
- ・パレットの枚数ベースで移動データを把握しているため、トラック何台分が動いているかはだいたいわかる。
- ・マッチングによる異業種間の共同物流のポテンシャルはあると考えているが、運送会社によっては、抵抗感を覚えるところもあるので、後押しとなるような施策が必要。

【全国物流ネットワーク協会からのプレゼン】

- ・連結トラックの接続機器について標準化を進める必要がある。
- ・隊列走行でも先頭車と後続車で、運送費の配分を検討する必要があるため、連結トラックで共同輸送のプラットフォームを作り、費用負担の考え方などが整理できれば隊列走行の土台となり得る。
- ・国に対しては、駐車スペースなどインフラの整備や、東名高速以外のルートにおいても活用可能となるようにお願いしたい。